遊べない環境が希薄な友人関係を生む

豊かな人間性や社会性を育むうえで、友達とのコミュニケーションは、子どもにとって欠かせないものです。にもかかわらず、近ごろの子どもたちは、友達との付き合い方が表面的なものになってきているといわれています。

そこで今回は、「本当に子どもたちの友人関係は希薄なものになっているのか」、また、「何が原因でそうなったのか」など、平成二年版の青少年白書をもとに、子どもたちの友人関係の現状と、その背景をみてみましょう。

僕たちは大きくなっても、ずっと友達だ!

大部分の子どもが友達に心を見せない

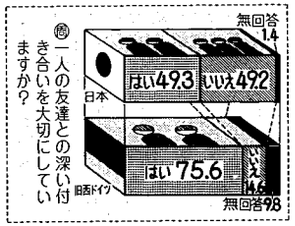
友人関係の現状からみてみましょう。

「仲のよい友達は何人いるか」という問いに、意外にも「二十人以上」という回答がもっとも多く、世間でいうほど子どもたちの友達の数は少なくありません。

ところが、友達との付き合い方に問題があるようです。九割近くの子どもが、友達に対して心の深いところを出さずに、ごく表面的な付き合い方をしています。〝親友〟と呼んでいる友達に対してでも、このような付き合い方をする子どもが、約半数もいるのです。「友人関係が希薄になっている」といわれているのも、あながち大げさな表現ではないといえるでしょう。

友達との付き合い方を、他の国と比較してみましょう（図1参照）。「浅く広く付き合うより一人の友達との深い付き合いを大切にする」日本の子どもが、旧西ドイツの子どもと比べて少ないのが目につきます。表面的な付き合い方しかしていない子どもが、思いのほか多いのには驚かされます。

図1



友達と遊びたくても遊べない子どもたち

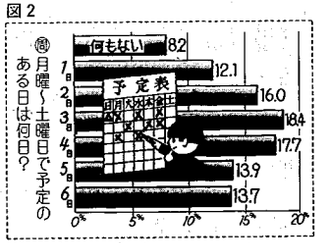
友人の数は多いが、その付き合い方が表面的なものになっている子どもたちー。この背景には、一体何があるのでしょう。

これは、子どもたちを取り巻く生活環境の変化、特に、子どもたちのコミュニケーションの場である「遊び」の時間が少なくなってきたことにあるといわれています。

一昔前なら、学校から帰るとすぐ遊びに行く子どもたちの姿が、どこの家庭でもみられましたが、今日ではどうでしょう。放課後の過ごし方について、こんなデータがあります。特定のある晴れた日に調べられたもので、学校から帰って友達と遊んだ子どもは、わずか一五・五%、八割強の子どもが遊ばなかったというのです。なぜ遊ばなかったのでしょうか。その理由のトップが、「塾や習い事に行ったから」というものでした。

塾通いなどの予定がある日が、月曜から土曜までの六日間のうち、何日あるかを調査したものがあります（図2参照）。一日もない子どもはわずかで、九割以上の子どもたちに、何らかの予定があるのです。これは取りも直さず、塾や習い事に追われ、友達と遊ぶ時間がない子どもたちが多いことを意味しています。また、自分は遊べる日でも、友達に予定があると、家の中でテレビや漫画、テレビゲームを相手に、一人で遊ばざるを得ないのです。友達と遊びたくとも遊べない―それが現代の子どもたちなのです。

図2



友人関係を深める環境づくりが大切

子どもが友達と遊ぶことは、大人が考える以上に重要です。遊びを通して、人との接し方を学び、他人に対する思いやりや共感の心が育っていくことで、友人関係は深まっていきます。この貴重な友達とのコミュニケーションの時間が、塾や習い事などの時間に費やされているのです。

確かに、受験戦争の時代を生きる現代の子どもたちにとって、塾や習い事は必要かもしれません。しかし一方で、友人関係も、子どもの人間形成において必要なことです。子どもの発達段階や個性などに応じて、学ぶこととのバランスを見つめ直し、友達とコミュニケーションできる環境をつくっていくことを、改めて考えていきたいものです。

お買物、ご用命は市内で

本町4 チューリップ店会 お店紹介

サービス本意
御料理・仕出し・各種宴会場
鮮魚仕出し　貸席　おぐま
本町4 (22) 3004・(23) 2233

えっ殺虫スプレーでも火事が起きるの

――2日から危険物安全週間――

来る六月二日から六月八日までの一週間、危険物安全週間が実施されます。

皆さんはご存知ですか。灯油、化粧品、塗料、接着剤など、日常生活で何気なく使っているものの中にも、多くの危険物があります。例えば、天ぷら油。これはどこの家庭にもあるものですが、身近ゆえに危険物の認識度は低いのです。天ぷら油でも、多量に扱うときは「危険物取扱者」の資格を必要とするりっぱな危険物なのです。これらは、その取扱いを少し間違うと、火災発生の危険度が高いものばかりで、ときには命さえ奪いかねません。この危険物安全週間を機会に、家庭では「家庭内危険物チェック」をしてみてはいかがでしょう。

天ぷら油は炎がなくても過熱で発火

天ぷら油火災のほとんどは、揚げごろの油温になるまで他の用事をしていたり、ちょっとのつもりでその場を離れたりしているすきに、油が過熱して発生しています。天ぷら油は過熱し続けると、炎を近づけなくとも三百五十度前後の温度で発火します。「弱火ならだいじょうぶ」は、大きな間違いです。その場を離れるときは必ず火を消すこと――これで天ぷら油火災の九九・九%はなくせます。

ウッカリが命を奪う危険物

製造所などでは、危険物取扱者の資格をもつ人が作業にあたったり、または立ち合わなければ、危険物は取り扱えません。家庭で考えるならば、危険物取扱者はあなた自身ということになります。危険物火災の場合、火がアッという間に広がることで被害が大きく、避難する間もなく尊い生命が失われてしまった事例は数多くあります。特に、灯油やガソリンなどを取り扱うときは、慣れによる〝ウッカリ〟は絶対禁物です。危険物を扱うときは、いつも本番待ったなしなのです。

免状の顔写真のはり換えをお忘れなく

危険物取扱者・消防設備士の免状については、十年に一回、写真のはり換えが必要ですので、ご注意ください。

平成元年四月一日から、免状の写真は、撮影日から十年を経過した場合、写真のはり換えが必要で、「写真書換え」の手続きをしなければなりません。ただし、経過措置として平成元年三月三十一日以前に交付された免状をもっている人は、十年を経過していても、平成四年三月三十一日までに「写真書換え」をすればよいとされていますので、この間に忘れずに手続きを済ませてください。

くわしいことは、消防本部予防係（☎22―0175）へお問い合わせください。

花みどりの里 再発見 私のチョット自慢

我が家のあけび(山谷町2)

山谷町2丁目の清野勇夫さんのお宅の庭先には、山ならともかく、平地では珍しいくらい大きなあけびの木があります。昭和24年当時、清野さんのおじいさんが東島の山から採ってきて植えたもので、40年以上経過しています。高さは、6～7m。高くなり過ぎてはと芯をとめたところ、横に広がり、今では5m四方の棚状に整えられています。4月下旬から5月上旬にかけて、むらさき色の小さな花が咲くと、清野さんは棚の下へ行き、蜜蜂のように花粉づけに精を出します。「この作業のかいあって、秋にはあけびの実が350個余りなります。春先のあけびの木の芽の天ぷらとあわせて、わが家の珍味です」と清野さん。「四季を感じ、緑をめでながら、そして楽しんでいます」と口滑らかに語ってくれました。

※広報では、花や樹木などにまつわる自慢話や情報、思い出などを募集しています。市役所企画調整課（☎24―2111内線333）までご連絡ください。

6月定例会の日程

市議会6月定例会が次の日程で開かれます。今議会では、新市長の施政方針演説、平成3年度予算の審議などが予定されています。なお、本会議は、どなたでも傍聴できます(本会議は午前10時開会)。

□6月3日(月)、4日(火)、10日(月)、11日(火)、21日(金)……本会議
□6月12日(水)……厚生委員会
□6月13日(木)……文教経済委員会
□6月14日(金)……建設企業委員会
□6月17日(月)……総務財政委員会
□6月18日(火)
(午前)……能代川等改修特別委員会
(午後)…新潟工科大学誘致特別委員会

※都合により、日程が一部変更になることがあります。ご了承ください。

お買物、ご用命は市内で

銘菓 栗太郎
和洋菓子司 田家屋
新津市本町四 TEL(22)〇四三〇

銘菓 雪かこい
和洋御菓子司 駿河屋
新津市本町二 TEL(22)〇五四三

信頼のブランド 羽毛布団
TOKYO 西川チェーン
ふとんの新保
本店 新津市本町2丁目10―27 ☎0250(22)0808
新発田店 新発田市舟入町1丁目17―14 ☎0254(23)6030